



●発行 2022.11.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

## ■9/25「第8回おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」を開催

おひさまフェス×星空上映会 実行委員会事務局長 木下 博行（当 NPO 正会員）

開催日2日前、当日の天気予報は晴れ。

「よし、開催できる！」。

毎回天候に悩まされ開催の判断が難しいこの屋外イベントは、今年も前週末の台風襲来とその後も雨模様が続き悩ましい1週間となりました。刻々と変わる天気予報を眺めながら最後の最後に開催可能と判断できる状況に。

正式に事務局長をお引き受けして2回目となるこのイベントの成功は、やはり天候でした。当日朝から水はけの悪い場所の雨水の汲み出しをみんなの頑張りでもやり遂げ、過去最高と評価できる2,500名の来訪者数（主催者発表）となりました。

今回はコロナ感染症が続く中で、5月31日にやっと第1回実行委員会を開き9月25日の開催を決定しました。準備期間が短い中、コロナ感染症を気にしながらも着々と準備を進めてきました。準備段階では、かつてない若者の参加も得てSNSでの拡散など広報活動が充実してきたことが新しい動きとなりました。

新しい関係づくりでは地元稲田中学校の美術部の生徒が作成した「竹灯り」をお借りし、星空上映会後の帰路誘導路に設置することができ、一歩前進できたと思います。稲田中学校とはチアダンス部や吹奏楽部の出演依頼なども行い、実現できませんでしたが将来への展望が開けたような気がします。子どものダンスチームも1グループが増えたこと、これまで毎回オープニングを飾ってくれた宿河原華匠太鼓をはじめレギュラー出演者の他、歌声活動を続けている大熊啓親子の出演など新しい仲間も加わりました。







昨年から出演いただいた腹話術のしろたにまもるさんも今後の継続が期待されます。ステージとは別に「シャボン玉オヤジ」さんも初登場、子どもたちが取り囲み大人気！でした。

飲食は関係者からの出店がコロナの関係もあり減少し、やむをえずキッチンカ



ーの出店を増やすことになりました。毎回出店のケバブ店の他、アフリカ料理のFOFOの出店は今後もお願い出来ればと思います。共催の多摩川エコミュージアムも今回は上流水の販売に加え子どもたちのために綿菓子を出してくれたことは嬉しい出来事でした。どの店も売り切れを含め大盛況だったようです。今後もできるだけこのイベントに賛同いただける方々に出店をお願いしたいと思っています。



このイベントの主要なテーマである再生可能エネルギー関係のブースもこれまでになく充実したと思います。天候にも恵まれたおかげでソーラークッキングも実演でき、自然エネルギーの力を体験できたのではないかと思います。このコーナーは原発ゼロ市民共同かわさき発電所、かわさき市民共同おひさまプロジェクト、川崎フューチャー・ネットワークが中心になり、クイズラリーを含め再エネの啓発に取り組んでいただきました。生活クラブ生協もこれ



を支えてくれたと思っています。また、電源車はこれまでのトヨペットではなく地元高津区の三菱自動車販売から提供していただき防災時活用のパネルも掲示できました。横浜トヨペットも視察に訪れ関係が切れたわけではないと思われたことはありがたいことでした。

夜の星空上映会は「月とアザラシ」、「わらしべ長者」、「かぐや姫」の3本を上映。土手には上映を待つ親子が続々と集まり、このイベントを象徴するような風景が広がりました。どんな映画を上映するのかよりも、太陽光発電で得た電気を使って気持ちのいい屋外の映画会を楽しめたことがみんなの心の中に残れば成功だと思います。



エンディングは大熊啓さんとハイタッチのリードによる歌声で「見上げてごらん夜の星を」がフィンガーライトの揺れる会場に響き、帰路には先ほど紹介した「竹灯



り」が足元を幻想的に照らし、感激の終了となりました。

毎回のことですが、このイベント成功のために動いていただいた方々、そして参加していただいた市民の皆さんに感謝申し上げます。このイベントがコロナ感染症で閉塞感が覆う社会に一つの希望の明かりとして続いていくことを祈りながら。

## 「おひさまフェス」に参加したご感想をいただきました♪

実行委員会 事務局スタッフ 伊礼 悠花（大学生）

地元で7年前から開催されていたのにも関わらず、私自身おひさまフェスの存在は全く知りませんでした。再エネに関心はあったものの、地域に根差した再エネイベントが近くにあったなんて、まさに灯台下暗しでした。おひさまフェスとは何なのか。模索しながら運営にまわるという面白い立ち位置で当日を迎え、会場の盛り上がり様にはとても驚かされました。社会課題に関するメッセージ性を持ったイベントは客層も絞られやすく、無関心層へのアプローチが難点です。ですが、おひさまフェスの入り口はとても広く、誰でも楽しめるイベントになっており、もう素敵という言葉で表せないくらい魅力が詰まっています。

地元の幼馴染もお手伝いとして朝早くから来てくれたのですが、帰り際に「子どもたちから『ありがとう』ってたくさん言われて、普段の仕事では感じることのない幸せな気持ちになった。誘ってくれてありがとう。いい経験になったからまた呼んでほしい。」と素敵な言葉をもらいました。運営メンバーになったことを誇りに思いますし、迎え入れてくださった事務局のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



## ■10/22「FEC+W KAWASAKI まつり」に参加

理事 高橋 喜宣

10月22日、川崎市宮前区の宮崎第二公園で行われた「FEC+W KAWASAKI まつり 2022」に参加しました。この祭りはかわさき生活クラブ生協が主催。Food（食）、Energy・Ecology（エネルギー・環境）、Care（たすけあい）+ Work（働く）をテーマに、地域で活動する団体が参加して開催しています。当 NPO 法人もこのテーマに賛同し、毎年、電気の生産者として協賛団体に加わっています。

活動を紹介する写真パネル、原発については良いところ悪いところにも触れながら最近の政府の原子力政策の問題点にも触れ、フクシマ 2022 年のパネル展も行いました。また、9月25日の「おひさまフェス×星空上映会」で好評だったソーラークッカー『ひまわり』作りも企画。残念ながら曇りでソーラークッカーによるゆで卵はできなかったです。

一人の幼稚園児が、難しそうなお底の部分だけは「お母さん、手伝って」とお願いし、本体の集光器は自分で切り取って最後まで完成させました。「しょうこうき」とひらがなを読んで質問もしていました。「この絵のように器にして、光を集めて熱にしてゆで卵もできるんだよ」という説明は分かったでしょうか？





## 利益優先の犠牲になるのが許せない

私は川崎区で生まれ育ちました。私の生まれる前から京浜工業地帯から発生した川崎公害による住民への生活被害が大きな問題になっていました。特に深刻だったのが、“川崎ぜんそく”でした。1971年に伊藤三郎市長が誕生して、「公害の街 川崎」から「暮らしの街 川崎」へ変えるために、全国に先駆けて環境アセスメント条例を制定するなど様々な施策が行われました。しかし、一度壊れてしまった環境は、なかなか元には戻らないものです。私も小学生の頃に小児ぜんそくを発症、公害病の認定患者になりました。症状は軽い方でしたが、それでも季節の変わり目になると夜中に発作で目が覚め、横になってられないほどの咳と呼吸苦で寝不足の日々が続きました。その時に診断、治療のために通院していたのが、私が現在働いている川崎医療生活協同組合が運営する“川崎協同病院”でした。

1982年に公害患者会などが原告団を組織して川崎公害裁判を起こしました。喘息発作で苦しい思いをしていた私は、被告団体に対して怒りを覚えるようになりましたが、その中に「東京電力」が入っていました。高校生になると喘息の症状も落ち着いて、「就職に影響するから」との医師からの助言を受け公害認定を返上しましたが、風邪をひいた時などの発作は現在も続いています。

医療生協で働き始めてから15年、2011年に東北地方太平洋沖地震が発生、その影響により東京電力福島第一原発で国際原子力事象評価尺度レベル7の重大事故が起きました。事故後10年以上たった今でも帰宅困難地域では高レベルの放射線が検出されています。今でも「これが東海第二原発で起こっていたら」、「風向きが首都圏方向だったら」と考えずにはられません。福島第一原発事故によって排出された放射性物質による公害は、現在も福島の人々を苦しませ続けているばかりか、国民への大きな経済的負担をかけ続けています。「一部の企業の利益を優先するために、環境破壊や健康被害を容認することが許せない」私が、かわさき発電所の活動に賛同する原点です。



## ■ 『みかん狩り&amp;再エネ学習会』 企画

## 参加者募集！



日時：2022年12月17日（土）

申し込み➡

●見学先：合同会社小田原かなごてファーム（講師：小山田大和さん）

●参加費：学生1500円、会員2000円、非会員3000円（移動費+お弁当代+みかん狩り参加費）

●集合場所：JR武蔵溝ノ口駅 改札前

●集合時間：7時30分

●解散時間：18時頃

## 【編集後記】

「おひさまフェス×星空上映会」、今年は奇跡的に雨が止み真夏のような日差しに恵まれました。コロナが心配される中、約2,500人の来場者があり、お子さんたちの笑顔があふれ、スタッフ一同感慨もひとしお。わたし的には、若者たちがお手伝いしてくれたことと、風に乗る幻想的なシャボン玉に癒されました。感謝♥(加藤伸子)

でん太通信は、ほぼ毎月15日に発行しています。

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

